



研修会報告書

尼崎市議会議員 福井かん子

【日時】：令和8年5月11日(月) 13時～

【会場】：尼崎市役所議会棟2階 議員総会室

【講師】：一般社団法人「子ども大学くまもと」理事長 宮津航一氏
※赤ちゃんポストに預けられた当事者

【概要】(研修の内容)

1. 熊本県の慈恵病院に開設された「こうのとりのゆりかご」について
2. 宮津さんが預けられた経緯
3. 宮津さんを自分の子として育てられたご両親について
4. 賛否両論ある赤ちゃんポストに対して、宮津さんご自身が思うこと

【所感】

自身が生まれてまもなく0歳の時に、お母様を交通事故で亡くされた宮津航一さん。

2007年に3歳で預けられ、里親に養育されたという自身の経験をもとに、2026年4月からは「いのちの語りびと」として、子ども食堂の運営や講演活動を精力的に行われていると聞き、まだ22歳とお若いのに本当にしっかりされている方だと感じました。

また、赤ちゃんポストに預けられた航一さんを、宮津家に家族として迎え入れられたご両親には、心から頭が下がる思いでいっぱいです。

2007年に開設された赤ちゃんポストに、1番最初に預けられた宮津航一さんにお会い出来てとても有り難く思いましたし、自身の生い立ちから今に至るまでを語られたこの日の講演は心から感動致しました。貴重な機会を作っていただき、本当にありがとうございました。



研修会報告書

尼崎市議会議員 山根 昌浩

日時：令和 8 年 5 月 11 日（月）13 時

会場：尼崎市議会議事堂議員総会室

講師：ふるさと元気子ども食堂 代表

一般社団法人 子ども大学くまもと 理事長 宮津 航一氏

概要

熊本市慈恵病院に設けられた「こうのとりのゆりかご」について

運用初日の午後に預け入れられた、初めての預け入れ。慈恵病院から児童相談所へ送られ、その後里親の宮津家で養育されることになった。小中高と進学していく中、自らの境遇と葛藤され成長していく。大学進学を機に「自分の言葉で自分の生き立ちを伝えたい」との思いで講演活動を始め。講演以外の活動も多岐に渡り、全国で活躍されている。

所感

自らの生き立ちを通して自分でしか語れない想いを社会に訴える。この講演を通して

「このとりのゆりかご」の実態と、そこから先の児童相談所や養子縁組等家族制度について再認識しました。あつてはならない施設であるがこの施設のおかげで救われる命もあるのも事実。将来的にはこのような施設がなくても良い社会を形成していくことが必要だと思いました。



研修会報告書

尾上直子

- (日時) 令和8年5月11日 月曜日
13:00～
- (場所) 尼崎市役所 議員総会室
- (講義テーマ) ～「こうのとりのゆりかご」から始まる第2の人生～
- (講師) いのちの語りびと 宮津航一氏
- (内容) 宮津さんが、こうのとりのゆりかごに預けられた経緯。
こうのとりのゆりかごが出来た経緯。
こうのとりのゆりかごの現状。
宮津さんの活動。
宮津さんが、生い立ちを公表した理由。
これからの展望をお伺いしました。
宮津さんについて
こうのとりのゆりかごの当事者

こうのとりのゆりかごは2007年に熊本市の慈恵大病院に開設され様々な事情で親が養育できない新生児を匿名で預かる施設です。宮津さんは2007年5月10日に3歳で、こうのとりのゆりかごに1人目として預けられました。その後、単親の家庭に迎え入れられ現在はふるさと元気子ども食堂 代表 一般社団法人子ども大学くまもと 理事長 一般社団法人ふるさと元気村 事務局長として活動されています。こうのとりのゆりかごや単親制度などの理解を広めるための講演活動などもされています。

こうのとりのゆりかごは2005年から2006年にかけて赤ちゃんの置き去りや、放置などで殺害する事件が相次ぎ、慈恵病院の進田理事長が日本版赤ちゃんポストを作ろうと決意しました。「事件になるようなケースでは妊娠・出産を誰にも知られたくないという事情を抱えた人が多く、匿名で預けることが出来る事により赤ちゃんを殺したり遺棄するのではなく預けるという選択肢を作りました。世間では安易に子供を捨てる親が増えるのではないか？などと反発の声も大きかったそうです。それでも熊本市は救われる命があるならと、安全確保などを条件に、こう

の通りのゆりかごの設置を許可しました。

2007年の宮津さんを含む17人から翌年の25人を最大に2024年の時点で合計193人が預けられました。

202年の時点で子どもを預けた父母の居住地は関東が29人次いで中部の18人、近畿の16人、こうの通りのゆりかごがある熊本市は14人、不明が58人とのことです。

身元不明のまま預けられた宮津さんが「宮津航一」となるまでは出自が判らないので、熊本市長が命名し、里親家族に引き取られ小学校手学年で出自が判明高校二年生で名前を変更したそうです。
その時に普通養子縁組が成立しました。

宮津さんの育ての親の美光さんの言葉をご紹介します。

「家族」とは？

「血がつながっているという事ではなくて『最後まで味方』でいることだ。『最後まで見方』でいるのが『家族』だ。」

現在の活動の一つである「子ども大学くまもと」を設立したきっかけはコロナ禍で居場所をなくしている子供の実情を知り、お腹と心を満たす場所として子ども食堂を開設し、心を満たすためには居場所も必要であるが、子どもたちの心が満たされるように働きかける大人、そして機会が必要だと思い、子どもに夢と希望そして可能性や視野を広げることにつながると設立されたそうです。

(所感)

宮津さんが生い立ちを公表した理由は、ゆりかごへの感謝の思いゆりかごへの思いを当事者として伝えたい、公表してからの、これまでと、これから。そしてこうの通りのゆりかごが社会へ映し出したものを伝えるためとお話されています。

こうの通りのゆりかごが開設された当時が記憶に残っています。安易に子供を捨てる方が増えるという声があったのも覚えています。

匿名で預けることが出来る事により赤ちゃんを殺したり遺棄するのではなく預けるという選択肢を作ろうと、こうの通りのゆりかごを開設した慈恵病院の蓮田理事長、救われる命があるならと許可を出した熊本市、子どもたちに夢や希望、視野を広げる機会を作り出している宮津さんの活動、行動力が素晴らしいと思うと共に、多くの方に、こうの通りのゆりかご、宮津さんの話を知ってほしいと思いました。